

2004年7月12日～14日にロシア沿海地方において、沿海地方政府とERINAの共催によるワーキンググループ会議が開催された。

この会議は、2003年10月に琿春市、2004年2月に新潟市において開催された図們江輸送回廊活性化フォーラムを踏まえ、今後の動きにつながる具体的な事例について、関係者や専門家が現状を把握し、今後の解決策について議論することを目指して開催された。いわば、図們江輸送回廊活性化にかかわる第3回目のフォーラムである。

ワーキンググループ会議には、ロシア（26名）、中国（11名）、日本（13名）から政府関係者、民間企業、専門家など50名（オブザーバー含む）が参加し、また韓国からは東春フェリー代表が参加した。

7月12日にウラジオストク市の沿海地方政府迎賓館において開催された基本方針会議は、沿海地方副知事のピクトル・ゴルチャコフ氏、前モンゴル大使の花田磨公氏が議長を務め、トロイツァ港を利用した貨物輸送について、ロシアと中国との共同取り組みのあり方、また日本の協力の方法などについて具体的な議論がなされた。中国側からは、中国南部と東北を繋ぐ国内輸送にトロイツァ港を利用したい考えが示され、また石炭輸送の可能性についても意見交換がなされた。ロシア側からはトロイツァ港の活性化を中国側の協力を得て進めたいとし、具体的にはトロイツァ港株式会社と中国の民間企業が共同取り組みを行うことが提案され、中国側にそのパートナーとなり得る民間企業の推薦と具体的な協議の実施を求めた。また、具体的な貨物量調査の必要性和ルート活性化にふさわしい、他のルートと十分競争できる輸送サービスの提供重要性が強調された。日本側に対してもトロイツァ港で取り扱うこととなりうる日本の重要な貨物についての情報提供が求められた。

13日には、ウラジオストクからハサン地区に移動し、カミショーバヤ積替え鉄道駅、ポシエツ港を視察した。ウラジオストクからハサン地区の国境都市クラスキノまではバスで約5時間を要した。至る所で道路工事が行われており、徐々にではあるが道路整備が進んでいることが確認できた。なお、トロイツァ港の入り口に当たるスハノフカからクラスキノまでは2003年末に完全舗装道路となった。

ポシエツ港の取扱貨物は石炭を中心に、2001年の29万トンから、2002年61.5万トン、2003年84.5万トンと急速に拡大している。2004年上半期で75万トンに上り、通年で120万トンの取扱を目指しているとのことであった。西シベリアからの石炭を韓国、日本向けに輸出している。

14日には、トロイツァ港を視察した。トロイツァ港には、輸入車・建機が並び、原木、スクラップなどの荷役も活発

図們江輸送回廊活性化に向けたワーキンググループ会議

ERINA調査研究部研究員 川村和美

9本の北東アジア輸送回廊のうち、北東アジアの全ての国・地域が関連する図們江輸送回廊の活性化を目指し、



写真1 カミショーバヤ積替え駅
広軌（ロシア）と標準軌（中国）のレールが併設されている。



写真2 ポシェット港 石炭で溢れている。



写真3 トロイツァ港 輸入した建機・中古車が並ぶ

に行われ、また東草と結ぶ東春フェリーも入港するなど活気が感じられた。

視察後は、トロイツァ港の事務所にて専門家会合が開催された。ここでは、トロイツァ港に関して、詳細な説明と質疑応答、意見交換がなされた。

トロイツァ港の貨物取扱量は2001年10万トン、2002年

15.8万トン、2003年24.1万トンと大きく伸びており、2004年上半期で16万トンに達している。韓国向けのメタルスクラブのほか、日本からの中古車や、日本向けの木材が主要貨物である。また、韓国東草港とを結ぶフェリー航路を活用したコンテナ輸送も好調とのことであった。このフェリーによるコンテナ取扱量は2000年2,390TEU、2001年3,494TEU、2002年5,550TEU、2003年6,088TEU、2004年上半期2,359TEUとなっており、拡大傾向にある。これらの貨物の半分以上が中国発着のトランジット貨物とのことである。

意見交換の場では東春フェリー代表から港湾利用の実態と問題点が述べられ、港湾利用、国境通過などについて、具体的な要望が出され、現在の課題が明確となった中で、ロシア側がその解決策を検討するという活発なやり取りができたことは大変有意義であった。

3日間にわたる会議と視察を通じ、今後のアクションプランを盛り込んだ覚書がまとめられた（別掲）。今回の会議では、中口が共同で港湾経営に当る方向で協議を行うことが確認されるとともに、中国国内輸送路としての活用が提案されたことにより、図們江輸送回廊の活性化に向けて、具体的な動きが出てきたといえる。

次回は2004年12月に中国長春市にて第2回ワーキンググループ会議が開催される予定となっている。

図們江輸送回廊（プリモリーエ2）におけるロシア連邦沿海地方トロイツァ港を利用する貨物輸送ワーキンググループ会議の覚書

北東アジア輸送回廊のうち、図們江輸送回廊（トロイツァ港経由ルート、以下当該回廊ルートと称す）の活性化に向けて、2003年10月琿春市、2004年2月新潟市において行われたフォーラムを踏まえて、2004年7月12～14日に、日本・中国・ロシア3カ国関係者によるワーキンググループ会議（第1回WGと称す）が開催された。なお韓国からもオブザーバー参加があった。

本会議の参加者は、北東アジア諸国・諸地域の経済発展のため、トロイツァ港と琿春をつなぐ当該回廊ルートを活性化させることの重要性を確認した。

また、実務者（専門家）レベルの会合が行われると共に、マハリノ駅、ポシェット港、トロイツァ港を視察・訪問した結果、今後、当事者は下記事項を誠実に履行していくことを確認した。

1. ロシア側は当該回廊ルートのロシア領内鉄道利用において、トロイツァ港利用の貿易貨物に対し、回廊ルートの活性化にふさわしい料金政策を柔軟

に採用していくことの検討を約束した。

2. 三カ国当事者は海上航路、道路、鉄道から構成される当該回廊ルート全体（中国・ロシアにおける）の輸送サービス（輸送料金、輸送時間、税金などから成る）が他の代替ルートに対し、十分な競争力を有するべきであることを合意した。
3. 中国側はトロイツァ港の活性化に向けて有限会社「トロイツァ港」との共同取組みを行うことを検討し、そのため速やかに中国側パートナー（民間会社）を推薦し、具体的に協議を進めることを約束した。民間協議が整った後に、沿海地方政府と吉林省政府は当該回廊ルート活性化に向けての協力案を相互に提示する。
4. 日本側はトロイツァ港取り扱い貨物になりうる重要貨物情報について、中国・ロシア両国当事者にできる範囲で提供する。それはタイムスケジュール、輸送量を含む。
5. 三カ国は今後、次のようなスケジュールを目標に取組みを続けていくことを確認した。

2004年11月	三カ国関係者間情報ネットワークの構築 貨物量調査の共同実施
2004年12月	貨物量調査とりまとめ 第2回WG会議開催（長春市）
2005年2月	課題ごとの現状と解決方向についての報告書の作成 上記当該回廊ルートの輸送コスト、輸送時間の確定

2004年7月14日